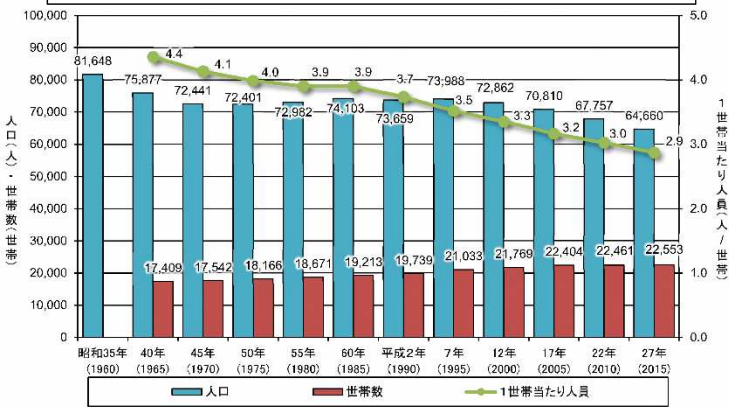


■丹波市の現状

■人口・世帯数

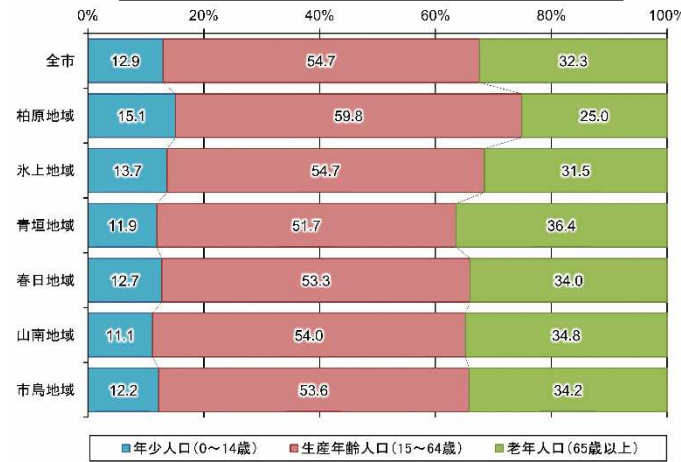
- 平成27年の本市の人口は64,660人で、世帯数は22,553世帯である。
- 平成7年以降人口は減少を続けているが、世帯数は増加が続いている。
- 1世帯当たり人員は減少傾向であり、平成27年には2.9人/世帯となっている(兵庫県平均は2.4人/世帯)。
- 平成27年の年齢3区分別人口割合は、年少人口が12.9%、生産年齢人口が54.7%、老年人口が32.3%となっている。兵庫県平均は、年少人口12.9%、生産年齢人口60.0%、老年人口27.1%であり、県と比較して老年人口の比率が高く、高齢化が進行している。
- 地域別でみると、いずれの地域でも年少人口より老年人口が上回っており、柏原地域以外においては30%を超えている状況である。

人口・世帯数の推移(丹波市公共施設等総合管理計画より)



出典：国勢調査

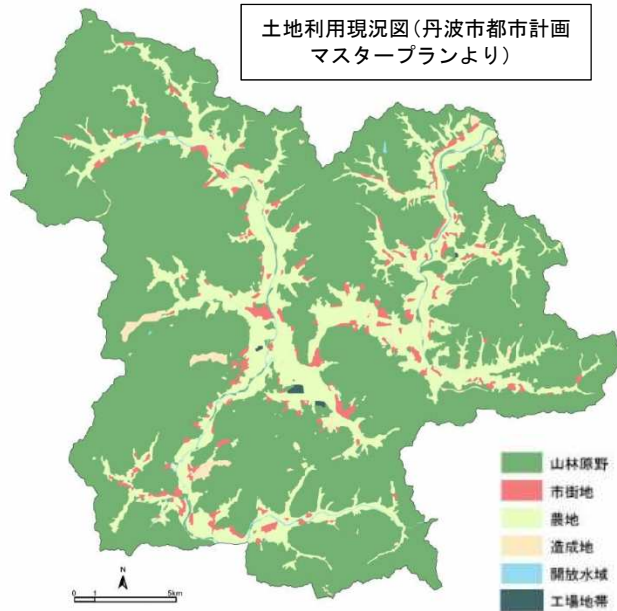
地域別年齢別人口の割合(平成27年)(丹波市公共施設等総合管理計画より)



出典：国勢調査

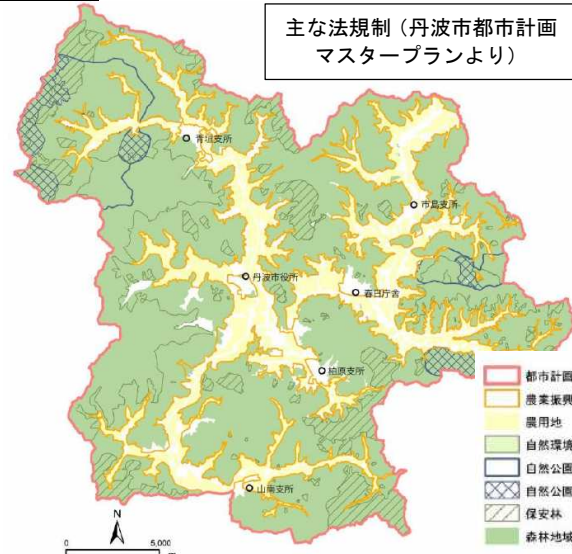
■土地利用

- 山林原野が約75%を占め、農地が20%、宅地その他(市街地・工場地帯・造成地・開放水域)が約5%となっている。



■法規制

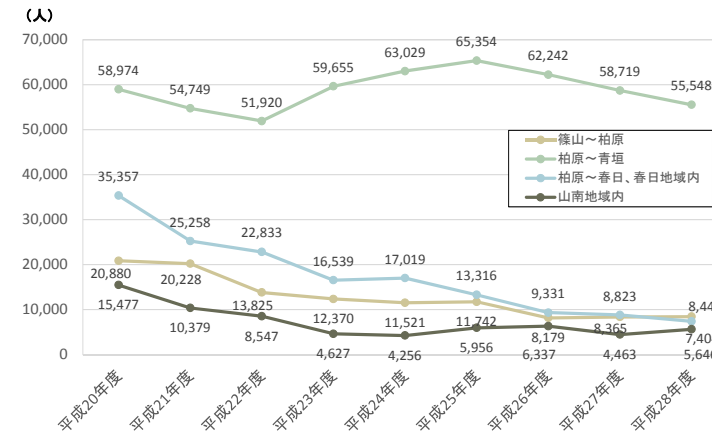
- 市全域を都市計画区域に指定(市中心部には、特定用途制限地域の指定による建築物の規制)している。
- 田園地域の大半は農業振興地域に指定され、森林地域は保安林や自然公園特別地域等が指定されている。
- 兵庫県緑豊かな地域環境の形成に関する条例(緑条例)による指定を受けている。



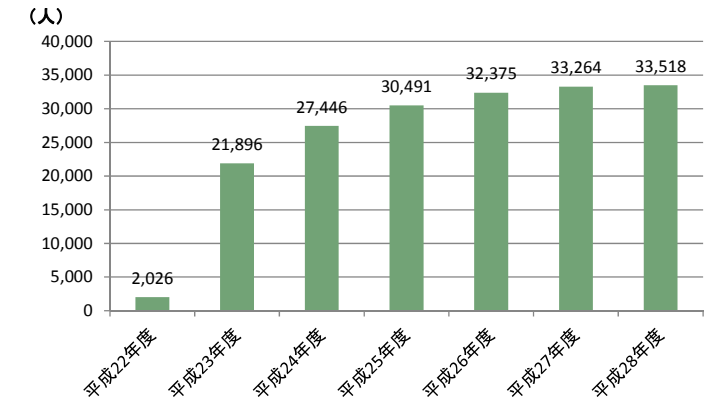
■交通

- JR 福知山線と加古川線が市の東部を南北に通っており、市内には8つの鉄道駅がある。
- 路線バスは神姫グリーンバスにより路線運行されている。路線バス乗客数は、減少傾向にある。
- 平成23年2月からデマンド(予約)型乗合タクシーの運行を開始し、旧町域内を予約により運行している。
- デマンド(予約)型乗合タクシーの乗客数は運行開始以来、認知度の向上とともに増加している。

路線バスの年間乗客数(丹波市地域公共交通会議資料より)



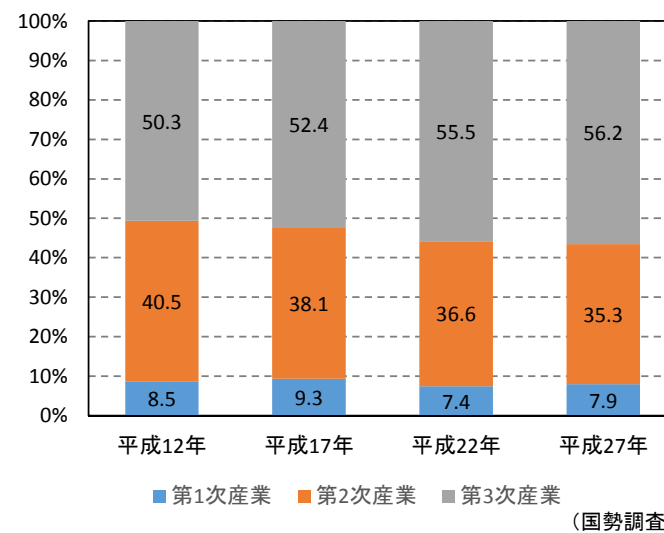
デマンド(予約)型乗合タクシーの年間乗客数(丹波市地域公共交通会議資料より)



■産業

- 平成27年の産業3分類別の就業人口の割合は、第1次産業(農業、林業など)が7.9%、第2次産業(製造業、建築業など)が35.3%、第3次産業(小売業、サービス業など)が56.2%となっている。兵庫県平均は、第1次産業が2.0%、第2次産業が25.0%、第3次産業が69.0%であり、県と比較して、第1次産業、第2次産業が大きく、第3次産業が小さくなっている。
- 経年的にみると、第1次産業、第2次産業は減少傾向にあり、第3次産業は増加傾向にある。
- 平成27年の総農家数は5,594戸である。そのうち販売農家数は3,470戸、自給的農家数は2,124戸となっている。経年的にみると、販売農家が大きく減少している。
- 経営耕地面積は、平成27年が3,943haであり、平成12年以降、経営耕地面積は減少を続けている。

産業分類別就業人口割合



農家数・経営耕地面積

	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年
総農家数(戸)	7,610	7,182	6,593	5,594
(販売農家)	5,551	4,776	4,183	3,470
(自給的農家)	2,059	2,406	2,410	2,124
経営耕地面積(ha)	4,964	4,195	3,952	3,943

(世界農林業センサス)

※販売農家：経営耕地面積30ha以上または農産物販売金額50万円以上の農家
 ※自給的農家：経営耕地面積30ha未満かつ農産物販売金額50万円未満の農家

■丹波市の上位・関連計画の要点整理

第2次丹波市総合計画（平成27年3月）

計画期間：基本構想 平成27年度から平成36年度、基本計画（前期） 平成27年度から平成31年度

■将来像

人と人、人と自然の創造的交流都市 ～みんなでつなぐ丹（まごころ）の里～

■まちづくりの視点

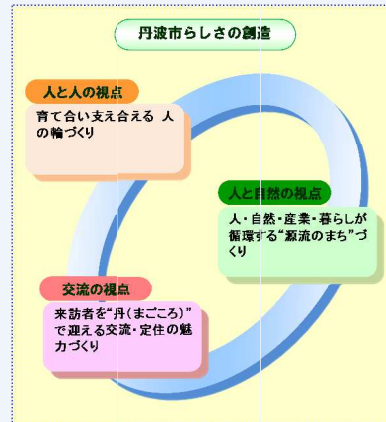
- 育て合い支え合える人の輪づくり ～「人と人」を視点とした丹波らしさの創造～
- 人・自然・産業・暮らしが循環する“源流のまち”づくり ～「人と自然」を視点とした丹波らしさの創造～
- 来訪者を“丹（まごころ）”で迎える交流・定住の魅力づくり ～「交流」を視点とした丹波市らしさの創造～

■基本姿勢

- 市民が主役の豊かな地域力【参画と協働】～市民力、地域力の向上に向けて～
- 計画的かつ効果的な行政経営【行財政運営】～行財政運営の安定化に向けて～

■まちづくりの目標

- みんなで支え、育む生涯健康のまち
- 誰もが住みたい定住のまち
- あいさつでつなぐ安心して暮らせるまち
- 美しい自然と環境を大切に源流のまち
- ふるさとに愛着と誇りをもった人づくりのまち
- 丹波力を活かした創意ある元気なまち



丹波市都市計画マスタープラン（平成24年12月）

計画期間：平成24年度から平成33年度

■将来像

人と自然の交流文化都市

■基本理念と都市づくりの目標

基本理念1：いつまでも健康で安心して暮らせるまち

- 【目標】①安全・安心なまちづくり
②都市機能が充実し、快適に暮らせるまちづくり
③日常生活を支える地域交通のあるまちづくり

基本理念2：人と人、人と自然が共生し、未来につながるまち

- 【目標】④自然環境と共生するまちづくり
⑤身近な歴史・文化を活かしたまちづくり
⑥丹波市らしい景観づくり

基本理念3：地域を支えるにぎわいと活力あるまち

- 【目標】⑦産業活力を高めるまちづくり
⑧商業的魅力を高めるまちづくり
⑨観光・交流のまちづくり
⑩効率的・効果的な公共投資のまちづくり

■都市の構造化の方針

丹波市都市圏と地域の日常生活圏が両立した都市構造



- ①丹波市都市圏の中心となる都市拠点（広域拠点、副拠点）の設定
- ②地域ごとのコンパクト化を支える地域拠点の設定と拠点間の連携
- ③広域拠点・副拠点・地域拠点の連携による日常生活機能の市内充足
- ④広域連携による高次都市機能の充足

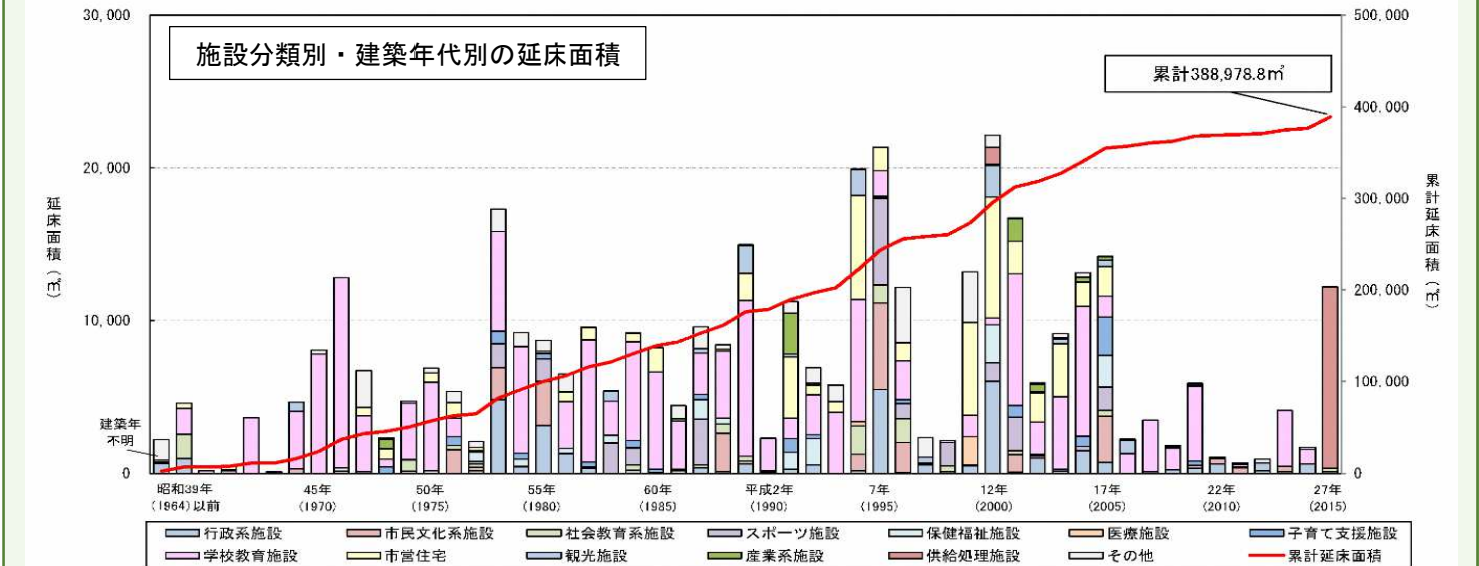
丹波市公共施設等総合管理計画（平成29年2月）

計画期間：平成29年度から平成68年度

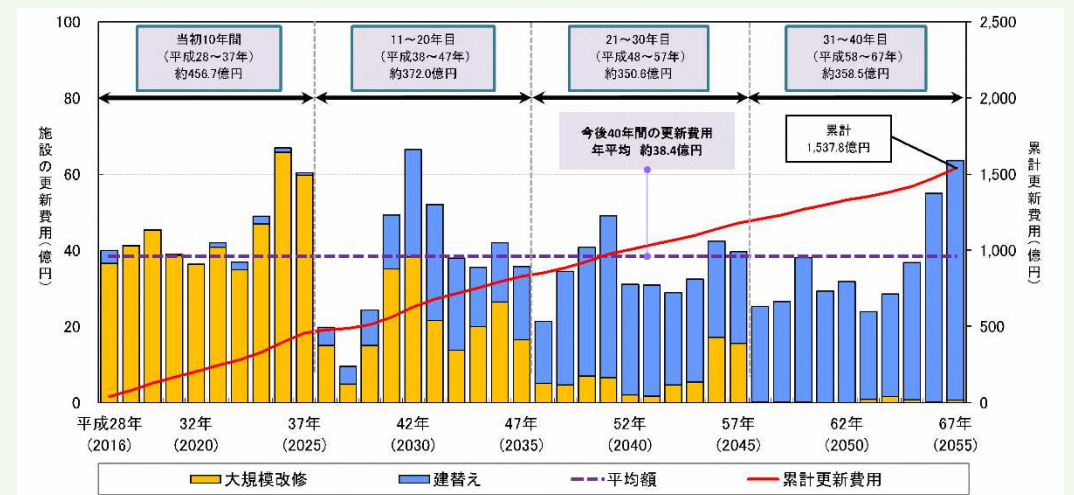
■現状と課題

○市民1人当たりの延床面積は約5.85㎡/人で、関西地域の類似団体の平均値（約4.99㎡/人）を上回る

○築30年以上経過した公共施設は約35.2%を占めている



○今後40年間の公共施設の大規模改修及び建替えにかかる費用は年当たり約38.4億円(累計約1,537.8億円)



■基本方針

- 方針1：施設の有効活用と施設再配置の推進
- 方針2：数値目標の設定による公共施設の適正管理
- 方針3：優先順位の設定
- 方針4：安全な施設の確保
- 方針5：時代のニーズ・地域特性に応じたまちづくりとの連携
- 方針6：市民や多様な主体との協働による取り組み

■数値目標

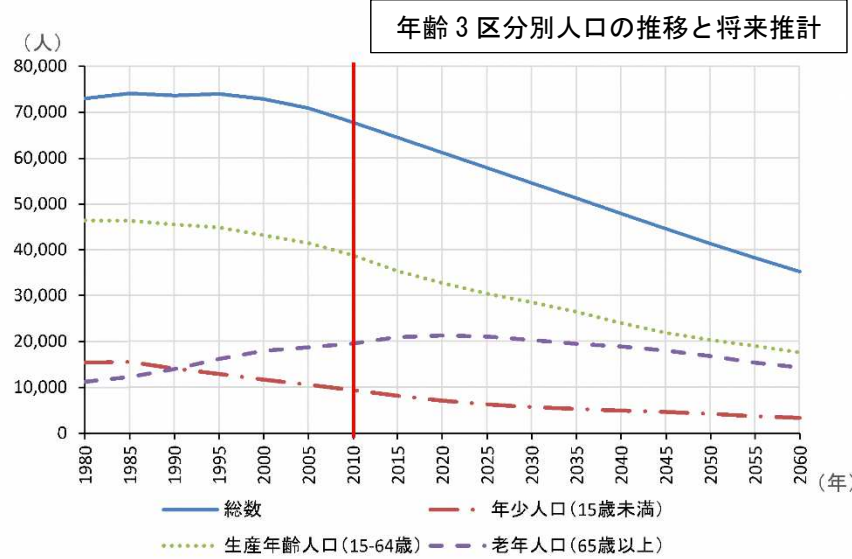
- ・公共施設をすべて維持した場合、今後40年間の更新費用は年当たり約38.4億円
 - ・今後の公共施設への投資可能な見込額は年当たり約19.9億円（必要な更新費用の約52%）
 - ・新耐震基準の施設を長寿命化しても年当たりの更新費用は約30億円となり、財源不足は解消されない
- ⇒公共施設の延床面積を40年間で約34%以上縮減する

丹波市人口ビジョン（平成 28 年 3 月）

計画期間：平成 27 年度から平成 31 年度

■人口の推移と将来推計

- 2040 年には 47,918 人になり、2010 年より 29.3%の減少、2060 年には 35,245 人となり **2010 年より 48.0%減少**すると推計される。
- 生産年齢人口**は 2010 年より減少の割合はさらに大きくなり、**今後も減少が続く**。
- 年少人口**は、1985 年から一貫して減少を続けており、**今後も減少が続く**。



【出典】2010 年までは国勢調査、2015 年以降は内閣府提供データ（社人研「日本の地域別将来推計人口」）を利用

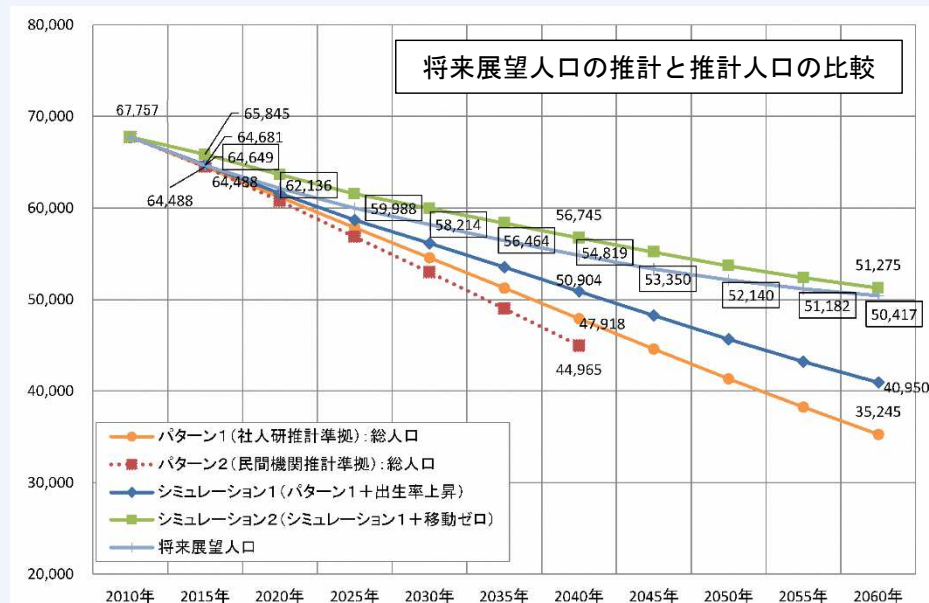
■目指すべき将来展望人口の考え方

①自然増減

- 5 歳階級人口 0~4 歳を、2,600 人を維持
- 2040 年以降は国の長期ビジョンで示す合計特殊出生率を達成するものとし、2.07 に設定

②社会増減

- 2025 年までに転入者を 70 人/年 増加、転出者を 26 人/年 減少させる
- 2026 年以降、転入者を 36 人/年 増加、転出者を 14 人/年 減少させる



丹波市丹（まごころ）の里創生総合戦略（平成 28 年 3 月）

計画期間：平成 27 年度から平成 31 年度

■2060 年のまちの姿

- 人口減少に歯止めがかかり、人口構造が安定してきた
- 市民の多くは、長年住み慣れた地域でいきいきと暮らしている
- 自治機能や市民活動が活発となり、地域の担い手が増えてきた

■2060 年の目標とする人口

- 本市の総人口 50,000 人程度を目指す

■2060 年の将来像

- 市民一人一人が個性と持てる力を発揮し、持続的に発展するまち

■基本的な方向性

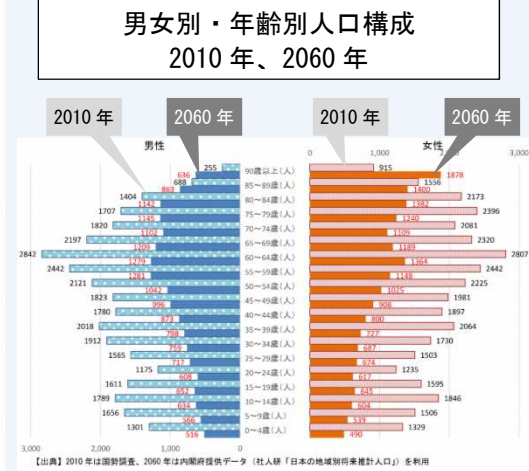
- 自然減をくい止める
- 社会増に転じる

■基本的な視点「活躍人口の増加」

- 活躍機会の増加
- 活躍時間の増加
- 活躍の力の向上

■基本目標

- 魅力的なしごとを創造する ～丹波ブランドを活かした産業の創造・継承と、活躍人口を生み出す創造的なしごとをつくる～
- 交流人口を増やす ～「人」との出会いから地域の魅力を伝え、交流を促進し、移住・定住につなげる～
- 市民みんなで子育てを応援する ～安心して子どもを産み、育てられるまち「丹波市」をつくる～
- 元気な地域をつくる ～活力ある地域コミュニティを育て、市民がいきいきと暮らすまちをつくる～



参考：国立社会保障・人口問題研究所による最新の推計値（平成 27 年の国勢調査を基にした推計値）

- 2040 年までは平成 22 年の国勢調査を基にした推計値より大きくなっているが、2045 年はほぼ同じ値となっている。

将来人口推計(平成 30(2018)年推計)

